会報
みちびき
平成27年3月
第118号
東京都公立学校
情緒障害
教育研究会

都情研の今年度を振り返って

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長
台東区立平成小学校校長
大石京子

平成二十六年度も終わりに近づきました。本年度も、年間を通して熱心に研究活動が進められ、活気あふれる充実した研修会が各部・各地区で開催されました。年々膨らむ会員数に対応して研究会を運営していくには、多大なお力添えや数々の工夫や努力があったことと思います。研究会の開催や運営にご協力・ご尽力いただいた全ての皆様に心よりお礼を申し上げます。

二十八年度から順次導入が予定されている都特別支援教育推進計画第三次実施計画を踏まえて各地区では、準備や新たな取り組みが行われた一年だったと思います。特別支援教室モデル地区での取り組みを視察したり報告を伺ったりする機会が何度かありました。モデル地区内では、成果を上げていくために様々な改善を加えながら試行しています。モデル地区外でも、できることから先行して取り組み始めています。

そのような報告を伺って感じることは、各地域によって地域性や学校・児童の実態、状況がそれぞれ違うということです。実態に応じて知恵を絞って柔軟に対応していく必要性を痛感しました。

大きくシステムが変わっていくときに大切なことは、何のためにシステムが変わるのか、導入の目的を見失わないことです。東京都から示された特別支援教室導入の目的は以下の通りです。

○現在の通級による指導を全ての小学校で受けられるようにする。
○一人でも多くの児童が必要な指導・支援を受けられるようにする。
○在籍学校・学級との協働を行いやすくすることにより、一人一人の児童が抱える困難に対して、より効果的な指導・支援を行えるようにする。
○在籍学級で受けたいx授業をできるだけ受けられるよう、柔軟な指導時間設定ができるようにする。
○児童・保護者の負担を軽減する。
(児童の移動時間、移動中の交通事故等の危険、送迎する保護者の負担)

システムが変わることのメリットもあればデメリットもあることでしょう。しかし、導入のねらいをしっかり押さえた上で、メリットを最大限に生かし、デメリットをカバーする方策を工夫して、新たな指導体制を作っていきたいと思います。より効果的な指導体制を作るために都情研が貢献するには、どんな役割を果たしたらいいのか、今後、皆さんと一緒に検討をしていきたいと思います。

最後になりましたが、講師としてご指導いただきました多くの先生方、本当にありがとうございました。また、東京都教育委員会都立学校教育部主任指導主事伏見明先生には「特別支援教室の円滑な導入に向けて」ご講演いただくと共に、都情研からの要望等に対して丁寧な対応とご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

掲載内容の紹介

P2～「子供のほめ方／5つのステージ」
学校発達心理研究所　研究統括官　発田　憲　先生

◎平成二十七年度東京都公立学校情緒障害教育研究会定期総会
【四月二十一日（火）二時開始】
国立オリンピック記念青少年センターカルチャー棟大ホール

◎特別研究部夏季研修会
狛江市エコルマホール
【七月二十九日（水）】
＊簗田明教先生（かわばた眼科発達支援センターセンター長）「視覚認知が学習に与える影響と通常の学級でできる支援」
＊笹田哲先生（神奈川県立保健福祉大学准教授）「学校生活で気になる行動の背景とその対応～姿勢、書字、体育、けが～」
【七月三十日（木）】
＊大石幸二先生（立教大学教授）「教室で気になる児童・生徒の行動観察のポイントとその対応～具体的な事例を通して～」
＊月森久江先生（杉並区立済美教育センター指導教授）「子どもの特性の理解から具体的な支援へ～つまずきのある子への学習支援～」
※通常学級の先生方をはじめ多くの方の参加をお待ちしております。

「子供のほめ方／5つのステージ」

学校発達心理研究所　研究統括官　発田 憲 先生

今回は、都内小学校でのスクールカウンセラーなど、様々な場でご活躍の発田憲先生に、「ほめ方」をテーマに寄稿文をお願いしました。
情緒障害にかかわる学級と通常学級のどちらにおいても、児童・生徒の指導や支援において欠かすことのできない大切な要素だと考えます。
ぜひ最後までお読みいただき、明日からの教育活動に生かしていただけたらと思います。
～広報部～

■はじめに

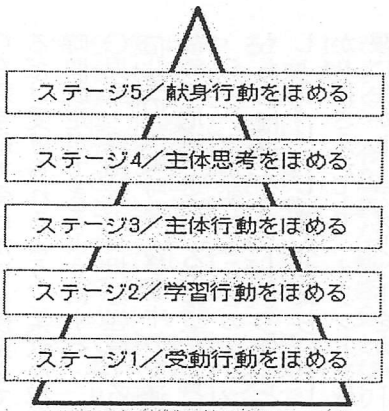
運動会で子供たちが一生懸命がんばっている姿は、毎年、当たり前に見ることができる光景です。演技や競技に集中できずにダラダラしている姿はあまり見かけません。普段は授業中にやる気を失くしてしまい、関心が薄れてしまうことが多い子供も、家庭においてゴロゴロしてばかりで、宿題も片付けもしっかりできない子供も、みんな張り切っています。やはり、運動会には特別な魅力があるようです。

魅力の一つに親や教師からいつも以上にほめられる機会が多いことが考えられます。かけっこで転んでも「よくがんばったよ！」とほめられ、組体操で失敗しても「よくやったよ！」といつもなら叱られるような場面でも、みんながたくさん　ほめてくれるのが運動会なのです。

通常、子供たちは叱られても、ほめられても、それなりにがんばります。叱られた時は、緊張感、恐怖感、罪悪感などの感情がやる気を起こします。それに対して、ほめられた時は、優越感、効力感、有能感などの快感が体内をかけめぐり、やる気を起こすのです。「叱る」「ほめる」の決定的な違いは、前者が脳や体がキューッとしめつけられた状態になっているのに対して、後者は心がホワーッとふくらんだ状態でゆとりがあります。運動会では、快感のシャワーを浴びている状態になるので、子供たちはいつも以上にがんばることができるのです。

私たち大人は、ほめることで子供が伸びることは知っています。しかし、日常生活の中であまりじょうずに実行できていない実態があります。たとえば、「ほめると、嫌がる。」「せっかく子供をほめても、状態がよいのはその時だけで、結局、叱ってしまう。」「いくらほめてもよい反応がないので、だんだんとほめなくなってしまう。」など、さまざまな失敗談を聞きます。

実は、子供のほめ方は、発達段階に応じた方法があります。そこで、子供のほめ方を5つのステージに分けて解説したいと思います。



子供のほめ方／5つのステージ

■ステージ1／受動行動をほめる

ステージ1は幼少期のころからよく使われています。大人からの指示や提案に子供がすぐに肯定的に反応（受動行動）することに対して「ほめる方法」です。

「○○しなさい！」に対して、直後にその通りに行動したり、「○○してはいけません！」に対して、すぐにその行動をやめたりしたことに対して、ほめます。

〈たとえば〉

①子供が「お菓子を買って！」と騒いだ時に、親から「我慢しなさい！」と言われ、我慢できたら、ほめます。

◆「ちゃんと我慢ができて、えらいね！」

②教師が「おしゃべりをやめなさい！」と指示した時に、すぐにやめることができたら、そのことをほめます。

◆「しっかりできたね！よい態度ですね！」

このステージで大切なことは、好ましい行動をその都度、ほめることです。

■ステージ2／学習行動をほめる

ステージ2はステージ1での経験を土台として、事前に大人から言われていたことを子供が覚えていて、必要な場面で見せる（学習行動）を「ほめる方法」です。

このステージでは、少し前に約束したこと、指示したこと、提案したことを子供が実行した場面で、

ほめます。

〈たとえば〉

①「テレビは好きな番組一つだけにする。」と、親と約束したとします。翌日、その番組が終わったら、自分からテレビを消した。この時に、ほめます。

◆「約束を守ることができたね！やるね～。」

②「学習計画表を作ったらどう？」と教師から提案されていたとします。翌週、そのとおりにした時に、ほめます。

◆「先生の話を覚えていましたね。成長したね！」

このステージでは、約束したことなどを大人が覚えておかなければなりません。そして、子供がその約束などを実行するまで、ねばり強く待つことも必要です。いつまでもできない子供に対して、「どうしてできないの！」「言われたことはやりなさい！」などと叱ってしまうと、子供の学習行動のスキルは伸びません。そこで、大人が計画的に子供に対して、約束・指示・提案をすることが大切です。

■ステージ３／主体行動をほめる

ステージ３は大人から何も言われなくても、自分の力で実行する好ましい行動（主体行動）を「ほめる方法」です。

このステージは、ステージ１、ステージ２においてたくさんほめられていると、安定的に出現します。

〈たとえば〉

①学校から帰ると、自分から宿題をやりだした。この時に、ほめます。

◆「自分で必要性を感じたの？すごいな～。」

②次の授業に向けて必要な教科書やノートを自分から積極的に用意していた。このことについて、ほめます。

◆「見通しを立てられるようになっていますね。しっかりしてきたね！」

子供の早期自立を求める多くの大人は、この主体行動の出現を急ぐ傾向にあります。「言われなくても何でも自分でやれる子になってほしい。」このような思いをもちながら子供の主体的な行動を促すことが多いようです。しかし、子供の主体行動は突然現れることはありません。それまでの生育過程の中で、言われたことをすぐにやってそのことをほめられたり、約束したことを実行してそのことをほめられたり、このような経験が土台となり、主体行動の力は育まれていきます。

■ステージ４／主体思考をほめる

ステージ４は気持ちではやろうと思っているのに、それが行動に伴わない状況において、気持ちの部分（主体思考）だけをとらえて、「ほめる方法」です。

〈たとえば〉

①勉強をしなければいけないと思っていたが、何もしないまま時間だけが過ぎてしまった。この状態に向き合い、子供の行動面よりも、あえて、思考面の肯定的な部分をほめます。

◆「やらなければいけないと思っていたのなら、その部分は成長したと思うよ！」

②いろいろなことがうまくできない状況において、感情を乱さないように我慢しなければと考えていたが、結局イライラした態度を見せてしまった。そこで、思考面の肯定的な部分を、ほめます。

◆「イライラした気持ちを我慢しようとしたのなら、その考えはりっぱだよ！」

このステージでは、子供の行動面がたとえ大人の期待に沿わない状況であっても、あえて、思考面の肯定性をとらえることが重要です。行動面は可視化できるため、そのことが目につきます。しかし、このステージでは子供の「思い」や「考え」をしっかり聴き、子供の内面に関心を寄せるかかわりが求められます。

ただし、子供がまだ小学校低学年より小さい場合は適用できません。この世代の子供が「考えているけどできない！」と主張した時には、できないことを一緒にやってあげたり、やり方を教えてあげたりするかかわりをしなければなりません。

■ステージ５／献身行動をほめる

ステージ５は他者のためになることを安定した考えのもと、自分の時間や労力を使い実行する行動（献身行動）を「ほめる方法」です。

献身行動は、ステージ１からステージ４までの積み重ねによって成熟した状態として現れます。また、生育過程において、十分にほめられ、自尊感情が安定している結果の行動になるため、あからさまにほめるよりも感謝の言葉や「私がうれしい。」と、大人の気持ちを伝えることでも子供の心に響きます。

〈たとえば〉

①不安定になって、気持ちを爆発させている友達にいつまでも寄り添っていた。このような事実を知り、一言。

◆「やさしい子になって、私がうれしいよ！」

②疲れて帰ってくる母親のために、食事を作り、洗濯も済ませていた。さらに労いの言葉をかけてくれた。この時に一言。

◆「ありがとう、これで少し楽できるよ！」

献身行動は、小さな子供にも出現します。それぞれのステージにおいて、献身的行動・思考としてとらえることができます。各ステージで安定的にほめられる経験を積むことで成熟した献身行動が誕生します。

（たとえば）

●友達がおもちゃを見つけることができなくて困っている時、親から「一緒に探してあげなさい！」と言われ、すぐにできた。（ステージ1にあたる献身的受動行動）

●先生から「床に落ちているゴミは積極的に拾いましょう！」と言われていたことを思い出し、ある日、自らゴミを拾った。（ステージ2にあたる献身的学習行動）

●一人で寂しそうにしている友達に自分から「一緒に遊ぼう！」とやさしく声をかけていた。（ステージ3にあたる献身的主体行動）

●学校の帰り道、ひどく落ち込んでいる友達がとても心配だったが、迷った結果、何も言えずに先に帰ってきてしまった。（ステージ4にあたる献身的主体思考）

また、献身行動の一部は偽善行動の場合があります。たとえば、小さな弟や妹の面倒を一生懸命みる子供は、本当は自分自身が親にかまってほしいのかもしれません。まだ十分にほめられず、満たされていない心の叫びが献身的な行動として現れている場合もあります。

■まとめ

子供の発達の観点から、好ましいほめ方をとらえると一定のガイドライン（GL）がみえてきます。

□就学前～小学校低学年のGL

小学校入学前後の子供は自立的にたくましく育つための基盤となる力を養う時期です。分かりやすく、具体的な指示を与え、それに対する肯定的な反応に対して、しっかりほめることで、子供は正しい言動を学んでいきます。

したがって、この世代の子供に対しては（個人差はありますが）ステージ1やステージ2のレベルでたくさんほめる機会をもつことが大切です。

また、以下の点に配慮する必要があります。

①ステージ3の出現機会をあまり過度に期待しない。

②ステージ4では、思考をほめるより、やり方を教えたり、一緒にやったりする。

③ステージ5の偽善行動に適切に対応する。

□小学校中学年のGL

子供が3～4年生にもなると（個人差はありますが）大人から言われなくても自分のすべきことが自分の力でできるようになってきます。それまでの成長過程の中で、学びためた経験があるからです。この状態の子供に対して大切なことはステージ3のレベルにより強く関心をもつことです。そして、発達的にできて当たり前になるステージ1やステージ2については、あえて見過ごす態度も必要になります。また、ステージ4の状況については配慮が必要です。ある部分では、思考と行動がアンバランスに出現する思春期の特徴をとらえることができます。しかし、まだ発達全体としては幼いため、未熟な思考の状態を全面的にほめる態度は時期尚早だと考えられます。そこで、子供の考え方をほめる場面と「考えてばかりいないで、やりなさい。」と子供に伝えるなど、対応を使い分ける時期だと言えます。

したがって、中学年の子供に対しては、ステージ3のレベルでたくさんほめる機会をもつことが大切です。また、ステージ5のレベルに関する行動は、安定的な献身行動なのかどうかを見極め、適切に子供とかかわる必要があります。

□小学校高学年～中学生のGL

この世代の子供の特徴は、思考面の著しい発達です。一見、行動面では幼さがあっても、内面では大人に近づいているのです。鋭い思考で自己や他者をとらえることが多くなり、自分の存在価値について悩む時期にもなります。

そこで大切なことは、子供の思考面に関心をもち、たとえ行動が伴っていなくても、肯定的な考え方を　ほめることです。そして、他者への思いやりのある態度に感謝の気持ちを伝えることです。

また、あまり好ましくない例としてステージ1やステージ2のレベルで「えらいね。」「すごいね。」などと過剰にほめることです。ほめられることは気分がよいことである反面、状況によっては子供扱いされている気分になり、自己肯定感が下がってしまうこともあるからです。

したがって、この世代の子供に対しては（個人差はありますが）ステージ4のレベルで思考面をとらえ、たくさんほめる機会をもつことが大切です。加えて、ステージ5のレベルが安定的に出現した場合は、積極的に対応します。そして、ステージ3については少しずつほめる頻度を減少していくことが好ましいと言えます。

第四十八回全国情緒障害教育研究協議会　岩手大会案内

平成二十七年七月三十日～三十一日の二日間、岩手県花巻市の湯の杜ホテル志戸平において全国情緒障害教育研究協議会岩手大会が開催されます。大会テーマは「岩手発・情緒障害再考～つなぐ、いかす、ささえる、岩手のニーズ教育～」というものです。

大会第一日目には記念講演として、兵庫教育大学大学院教授の冨永良喜先生の講演、基調講演、シンポジウム「離散的支援の解消を目指して～学校・家庭・地域の連携を目指すために～」が予定されています。二日目は、分科会に分かれ、様々なライフステージに応じた支援について、今日的な課題に基づいて実践を通して学び合う時間を設定しています。

東日本大震災から四年を経過し、東北の復興にエールを送る思いでこの大会を企画し、数年かけて準備をしてきました。花巻市の実行委員会の先生方の思いを全国に広げたいと思っています。花巻は宮沢賢治さんの生誕の地でもあります。現地を訪れることで多くの学びが期待できる大会になっています。ぜひ大勢の参加を期待しています。

全情研事務局長　有澤直人

活動報告

＊庶務部（担当Ｂブロック）
目黒区立原町小学校　上田拓

○経費削減…封筒の再利用・定期総会資料の冊数減
○関係会議の開催…幹事代表者研修会四回・合同幹事研修会三回・部長副部長研修会七回・ブロック研修会一回～三回・定期総会
○設置校長会の開催…二回
○教育研究普及事業…東京都教育委員会研究推進団体として認定され、研究成果を都の教員が共有できるように普及する使命を担う。普及のための経費が支給され、研修会等に担当指導主事の派遣を要請できる。今年度は対策調査部担任研修会に一回、役員会・設置校長会に一回の計二回派遣要請した。
○学級名簿を発行。新設校等に二部ずつ（校長室・学級分）配布。全学級配布は、平成三十年度を予定。
○国立オリンピック記念青少年総合センターの利用…児童青少年団体として認定され、センターを研修会等の会場に利用している。

＊会計
武蔵野市立村山学園　及川貴史
東大和市立第二小学校　分銅喜江

２月末現在において、昨年度より引き続いた各部担当の皆様のご協力、ご尽力によって、計画通り予算の執行をすることができています。分担金収入の増加が見込めない中、支出を抑え、経費削減をすることは、次年度の研修や広報など、活動の継続と促進に繋がるかと思います。今年度の皆様の取り組みに心より感謝申し上げます。次年度も引き続き、可能な部分の節約と計画的な予算の運用が求められます。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

＊設置校部
練馬区立豊玉南小学校　坂井英子

設置校部は、情緒障害学級担任の専門性を高める場として、年間五回の分科会と担任総会、通級入門分科会、夏季集中研修会、各区市町村別研修会を実施しました。

本年度も四分科会（コミュニケーション指導、運動・音楽等、発達障害、思春期対応）に分かれて研修を行いました。各分科会では、年間テーマを設定し、講師等を招いての専門的な研修や実技研修、施設見学、各学級の指導実践の紹介等を行いました。各分科会の活動内容は、「分科会報告資料」として冊子にまとめますので、ご覧ください。

夏季集中研修会は、二つの講演会とグループ討議の内容で実施しました。講演会は、「発達障害がある児童・生徒の学習支援の実際」について月森久江先生（杉並区立済美教育センター）に、「キレやすい子の理解とその保護者や援助者への支援」について大河原美以先生（東京学芸大学）にお話いただきました。グループ討議は約十名前後のグループに分かれて行いました。各グループにスーパーバイザーとして都情研のベテランの先生方に入っていただき、各学級の話や悩んでいることなどを話し合いました。また、他地区の先生方と交流し、様々な情報交換をすることができ、実り多い研修会となりました。

情緒障害学級の新設や学級増により、新しく情緒障害学級担任を経験される方々が大変多くなりました。そこで六月に通級入門分科会は小・中学校別に行いました。講師の先生方、各分科会世話人等の方々のご協力により、本年度もこれらの活動を無事に行えましたことを感謝の気持ちを込めて、ご報告いたします。

＊対策・調査研究部
八王子市立第九小学校　長澤雅彦

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画を受けた、北区・目黒区・狛江市・羽村市におけるモデル事業が終わりました。

平成二十七年度は、本格実施に向けた移行・周知期間、平成二十八年度には全都的な実施が予定されています。

詳細につきましてはガイドラインが示される予定ですが、小学校の通級指導学級にとっては、指導形態や内容について、大きな変換が求められることになります。

また、もう一つの大きな課題として、中学校の情緒障害等学級の現状があげられます。発達障害の対応だけでなく、医療機関と連携が早急に必要なケースや、不登校状態の生徒の受け入れ等の現実があり、日常の学習・生活指導はもちろん、進路指導が大変難しくなっています。

五月　学級実態調査の実施

情緒障害等学級在籍の児童・生徒数の増加傾向は続いております。また、情緒学級の経験年数が浅い先生方が多く、専門性を高める研修の必要性が浮き彫りになっています。

七月　三者連絡協議会

都情研と都弱視教育研究会、難聴言語障害教育研究会との研修を行い、連携を深めました。

七月　都教育庁との意見交換会

東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画の内容について、また、中学校情緒障害等学級に在籍している生徒の実態や進路についての意見交換を行いました。

特別支援教室の設置、巡回指導の導入の意義などについて都教委としての考え方を聞くことができました。都情研としては、これまでの研究の実績を伝えると共に、今後の研究の方向性を考える機会になりました。

また、中学校に関しては、該当生徒の状態や指導の実態をよく把握しながら検討していきたいということでした。

十一月　担任研修会

東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課主任指導主事の伏見明先生をお招きして、特別支援教室構想及び巡回指導に関する内容についてご講演いただきました。発達障害の児童・生徒への支援体制の整備、特別支援教室の導入のねらいなどについて詳しいご説明があり、今後小学校の通級指導学級においては、地域の実態に応じた変化や工夫が必要であるという内容でした。

＊特別研究部

世田谷区立松原小学校　樫本真理

七月三十日・七月三十一日に狛江市エコルマホールで夏季研修会を行いました。今年度は、収容人数の関係上、情緒担任の方の申し込みは、三年目までの方としました。通常の学級の先生方と合わせ六百名近い方にご参加いただきました。

第一回研修会には橋本創一先生（東京学芸大学教授）、第二回研修会は佐藤里美先生（株式会社エデュアス）・井上賞子先生（島根県安来市立赤江小学校）、第三回研修会は吉本裕子先生（帝京大学教職大学院　客員准教授）、第四回研修会は星山麻木先生（明星大学教授）を講師に迎え、ご講演いただきました。研修会アンケートには「勉強になった。」などの声が多く、有意義な研修会となりました。

来年は、授業や指導で活用できる「不器用さのある子への支援」や「子どもの見立て方」をテーマにした講演を企画しています。今後も参加者にとって実り多き研修会を開催できるよう努めて参ります。

＊広報部

八王子市立由井第一小学校　大嶌知

情緒障害等学級の先生方だけではなく、通常学級の先生方にも役立つ情報を提供するため、総会及び夏季研修会の二つの講演の要旨を掲載しました。また、今号には、寄稿文をお願い致しました。

予算厳しい中、毎号六ページでの発行、各校一部ずつの配布が続いています。より多くの方々に読んでいただけますよう、今後も各校での増刷り等のご協力をお願い致します。

情緒障害等学級の先生方には、「みちびき」を介して通常学級の先生方とより一層連携をとっていただく等、有効利用をしていただけると幸いです。

編集後記

編集・発行　広報部

広報に関する御意見、御感想がありましたらお寄せください。

八王子市立由井第一小学校
☎０４２―６４２―４２０１

印刷　㈱ワールドミーティング